



発行日 平成21年11月16日(月)
発行 社会福祉法人 訪問の家
サポートセンター 広報担当

TEL 045-897-1101
FAX 045-897-1119
<http://www.houmon-no-ie.or.jp>

第29号

この街で



平成21年度 さかえ・ふれあい運動会

—目次—

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| P.1 さかえ・ふれあい運動会より | P.2 ちょっと気になるあの場所は?? |
| P.3 にんにくの視点 | P.4 舞台裏をご紹介!夏プログラムの裏側 |
| P.5 地域レポート最前線 | P.6 MY SWEETHOME/小祝ウォーカー |
| P.7 私の宝箱/現場実習を終えて | P.8 お知らせ・編集後記 |

日中活動支援



ちょっと気になるあの場所は??

桂台中央バス停の裏側で・・・

みなさん！！桂台小学校側の「桂台中央」バス停から見えるこの景色、見覚えありませんか？



バスを待っていると、地下室のようなこの場所から何やら金属音がガチャガチャと聞こえてきます。「何をしているのだろう？」と気になったことはありませんか？
今回は普段皆さんにはお見せする機会のない作業室4をご紹介します。

Q1 何をしているの??



広〜い作業場になっていて・・・



足踏み式プレス機や



電動プレス機に
缶をのせて

A1 アルミ缶のプレス作業を行っています！

Q2 誰がいるの??



A2

径の「カランコロン」グループと「リサイクル」グループのメンバーさんたちが仕事場として使っています。

地域の皆様のご協力でいただいたアルミ缶を、この場所をつぶしているのです。つぶしたアルミ缶は、この後リサイクル工場に運びます。ご協力頂いている皆様、いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします！！

にんにくの視点^め

20数年前、会社勤めをしていた時「人の生活に密着した仕事がしたい」（今思うと何と大それたことを！）と思い、その後障害のある方たちとの出会いに惹かれてこの仕事に就きました。時が経ち、気がつく「仕事」に対しての想いを自分に問うことが少なくなりましたが、所長という立場になり職員をとおして仕事への姿勢や「志」といったものを考えさせられるようになりました。

例えば、利用者さんの行動を「そうさせるものは何なのか」と、その人の内面をひも解くようにとらえる職員からは粘り強さや思慮深さを教えられます。待つ姿勢で丁寧にに関わり、さりげない気配りが長けている人からは誠実さを知らされます。また、自分の休みや予定に関係なく何かあるといつでもすぐに動く人からは人のよさや頼もしさを感じます。

もちろん利用者さん、ご家族の方からみると至らない点多々あると思いますが、人の生活、人生に関わり、時に悩みもがきながら前向きに臨む姿からは時としてこの仕事に就いた「プライド」のようなものを感じさせられることもあります。

この夏、子どもたちへのあたたかいまなざしが印象的で前々からお話を伺いたかった本郷特別支援校の松崎校長に職員研修をお願いしました。お話しの中で先生は私たちへ「障害のある方への関わりを通して街づくりを担い、社会を変えていくというクリエイティブな仕事をしているのです」と言われました。また、今は病と戦われている元宮城県知事・浅野史郎さんは法人20周年の式典の席で私たち職員へ向かって「羨ましい！」とおっしゃいました。お二人の言葉からは「社会の中での役割」という視点から自分たちの仕事を考えさせられます。

径には若い人たちもたくさん入ります。ショートステイは県立保健福祉大始め学生アルバイトさんの若い力が文字通り戦力になっていますし、年間を通して実習生も次々と入ります。小・中学生との交流もあります。彼らの目には果たして魅力ある職場として映っているのでしょうか。職員の働きは目指す姿として映っているのでしょうか。

福祉の仕事のことがいろいろとされていますがこの仕事をしている人が「かっこよく」、「きちんと」していればこの仕事への理解、ひいては障害のある方たちへの見方や支援の充実にも繋がることでしょう。私たち職員にはそういう責任もあるのかもしれない。

身内である職員のことを書くのは手前味噌なのかな…と思いながらも私たちの仕事を知っていただくことにも繋がる、と書かせていただきました。書きながら、なんだか改めて背筋が伸びるような思いになりました。

明日からちょっとだけ気合を入れなおし、もう少し早く出勤します…！

サポートセンター径 所長 金子恵子



舞台裏をご紹介します

～夏プロができるまで～

野球観戦



今年も

5月

まずは企画会議を行います、プログラム内容の検討を行ないます。実は、スタッフが持ち寄った企画の2/3は未採用！熱い思いで提案した企画が通らずガックリ...する間もなく発送準備へ。

6月



案内の発送や決定通知は、住所など間違いがないか、膨大なリストを何度も確認して配送。当然送り忘れる事はないはずのはがきが・・・返信が遅れご迷惑をおかけした方、本当に申し訳ありませんでした。

7月

レストランのメニューから道中のトイレの場所まで細かく下見します。店内でのミキサー使用は何箇所も電話して交渉する事も！でも下見に行くスタッフは楽しみを先取りできるとルンルン気分で調査へ出かけます。何事も確認！確認！（もちろんみんなの事が最優先です）

直前!

共同企画プログラム（うどん打ち等）もボランティアさん達と連絡を取り準備を進めます。スタッフとは違った楽しみの場を作ってくれるボランティアさんは、本当に頼もしい限り！

当日!

皆さんが楽しく安心して過ごせる万全な支援体制を組みます。これで安心！のはがき・・・ボランティアさんへの連絡を忘れ、当日の朝になっても来てもらえず真っ青になった事もありました。

このような準備を経て、夏休が終わるまでは本当にあっという間でした。熱い太陽にも負けずに思い切り体を動かして楽しんでいる姿、一緒に何かを作ったり興味津々でそれを覗き込む目...全てのプログラムを終えた時、大きな達成感と共に、スタッフの胸にはこれらのたくさんの記憶が積み重なって「また来年もやるぞ!」と思わされてしまうのです。

生活支援担当 三橋清之

地域レポート最前線

小野さんは、昨年の夏にリハビリ施設から退所したばかり。人とかかわることが好きな彼女が地域の中で日中の活動場所を求めて相談に来たのが出会いです。歌や絵が得意でボランティア活動に興味があるなど、とても意欲がありました。しかし、脳血管疾患の後遺症で片まひがあり、思っていることをうまく言葉にあらわすことの難しさもあります。「大勢の中でどうコミュニケーションをとればいいのか？受け入れてもらえるのかな？」と不安を抱えながら色々な活動先を検討し、近くの小菅ヶ谷地域ケアプラザにも一緒に相談に行きました。

すると、そんな不安を吹き飛ばすように「一緒に地域の中の居場所を作っていきましょう」との嬉しいお返事をいただきました。こうして午前はケアプラザのデイサービスのコンサートに参加し、午後はお茶や手芸などの趣味を楽しむというサロンの活動につながりました。



いざ活動を始めてみると、実力を発揮！積極的に色々な人に話しかけ、明るい笑顔と優しい気配りで雰囲気を和ませる小野さんに、デイサービスの利用者さんも「いつもありがとう。」と気軽に声をかけてくれるようになり、音楽ボランティアとしての役割も担うことになりました。ひとりの人の「思い」を核に人と人とのつながりが生まれ、活動の場がひろがる。障害のあるなしにかかわらずその場にいることがごく自然に受け入れられるような、この地域のやさしさとあたたかさを実感しました。これからも、笑顔とおしゃべりが絶えない「サロン・うたっちゃお」メンバーのパワーが地域を元気づけられるように、私たちも一緒に歩いていきます！

MY SWEETHOME

ケアホームやグループホームとは、障害のある方達が家族と離れ、住み慣れた地域で一軒家を借り、スタッフに支援を受けながら4~5人で共同生活をしている第2の家のことです。

普段はそれぞれが居室を持ち自分の空間を大切にしながら、共同生活を送っています。しかしいつも穏やかに時が流れているわけではありません。普段なら、我慢の出来るような些細な事でも時には入居者同士ぶつかり合ってしまう事も・・・。

桂台にあるケアホーム「きゃんばす」でも、4名で仲良く！？騒

がしく！？元気に日々を暮らしています。数年前、入居者の一人である青山さんが体調を崩し入院したときの事、その事態を同居者の岡村さんに伝えると普段はニコニコ穏やかな彼のほほに涙が流れ落ちました。

普段は食事でも人一倍早く食べ終わり、自室に戻ってしまう事が多くマイペースのように見える岡村さんですが、このときばかりは青山さんの事を心配しての涙だと側にいて感激しました。普段は他の人の事を気にしてるように見えなくても、本当は皆、自分の事のようにお互いの事を考え、同じ事で悲しんだり、喜んだりしているのだと気付かされました。他人同士と一緒に生活していますが、当たり前のような新たな絆が出来てきているのだろ

うと思わせてくれる出来事でした。栄区には訪問の家が運営するホームが6つあります。これからこのSWEET HOMEでいくつも生まれてくる楽しいエピソードをお伝えしていきたいと思います。

乞うご期待☆★

ケアホームスタッフ 橋本亜矢子



小祝ウォーカー Koiwai Walker

第2号

小祝編集長が横浜の街を自らの足で取材し、ホットな街の話題を紹介する『小祝ウォーカー』今回は、さくら住宅さんの『リフォーム祭り』をご紹介します。

「さくらリフォーム祭り」が10月3日、4日に桂台中央バス停側のスペースで行われました。今回のテーマは、『地震対策！！』携帯トイレなど、緊急時に備えておきたい防災グッズの紹介から家屋の補強まで、社員さんが実物や模型などを使い分かりやすく説明してくれました。もちろんそれだけじゃあないんです！！素敵なキッチンやバスルームなど、色々なメーカーの商品や、イベント限定の格安商品も展示されていましたよ。次回は未定のようなのですが、開催の際にはぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか？ ゆめのパンも販売してますよ！

編集 小祝貴史・勝俣篤志





Grazie
ありがとう 謝謝
Thank you!

私の宝箱 「ありがとう」



父に「お店の店員さんに何かしてもらったことを当たり前だと思わず、ありがとうと伝えるといいよ。」と言われてから、私はそのことを意識するようになっています。ありがとうは言われるのも言うのも気持ちのいい言葉です。「ありがとう」の言葉ひとつでその場の雰囲気は温かくなります。そして、店員さんだけでなく、今の環境や人に恵まれているということにも私は日々感謝しています。これからも「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れず、日々過ごしていきしていきたいです。

ショートステイサポーター 野村優子



現場実習を終えて



上智大学4年 矢野友里恵

私が実習中に感じたことで最も印象に残っていることは、知ることの大切さです。径の中には医療的なケアや専門的な介助を要する方もいて、私は実習当初、そういったケアを必要とする方々に対して、「自分のような知識がない人間が関わってはいけないのではないか」と思い、なかなか関わることができずにいました。

しかし、職員の方々やメンバーさんのご家族が、私にメンバーさんについて機会あるごとに教えてくれ、その度に私はメンバーさんのことを知り、「自分も関わっていいのだ」と思えるようになり、自分から関わりを持つことができるようになりました。

相手のことを知らないと、関わることに対し恐れに似た気持ちを抱いてしまいますし、相手のことを知るだけで、こんなにも接し方は変わるんだということを実感できた貴重な体験だったと思います。地域での生活を支援するというのは、このような経験を地域住民の方との間で何度も積み重ねて行われていくものなのかもしれないな、と感じました。



実習を快く受け入れてくださった職員の皆様、ご家族の皆様、そして利用者の皆様、本当にありがとうございました。

径では毎年多くの実習生をお受けしています。実習を通して将来、仕事として支援者を目指すかはさておき、障害のある方々の存在を知る、認める社会人になってほしいと願っています。そして我々もひとつの出会いとして、この機会を大切に考えています。

実習担当 庄司晃洋

パン工房 大改造!! ビフォー→アフター

ゆめの劇的

10月18日朝。閑静な住宅街の一角にある徑に何台もの大型トラックがやってきました。そこには、見た事もないような大型の機械が・・・これから一体何が始まるのでしょうか！

この日、「もっとおいしいパンを食べて欲しい」「もっとゆめのパンを知って欲しい」「もっとパンを作りたい」・・・そんなゆめのメンバーの強い思いの結晶が、ついに実現したのです。

今までの工房より5倍近くのパフォーマンスを持った発酵機や、オープン、専用の冷蔵庫や総ステンレス張りのシンクを導入しました。



なんということでしょう!!



お昼頃、徑の前を通ってみてください。パンの焼ける香りがみなさんの足を止める事でしょう。今日はどんなパンが出来上がるのでしょうか！？

パワーアップしたパン工房「ゆめ」は、桂台唯一のパン屋として、これからもこの街のみなさんのご愛顧と、たくさんのボランティアさんに支えられて進化して行きます。

ふれあいまつり開催のお礼

10月4日（日）栄公会堂にて、訪問の家後援会主催のチャリティーイベント「ふれあいまつり」が開催されました。近隣の小中学校の合唱や演奏に始まり、ロスオリンピック柔道金メダリストの山下泰裕さん、毎日新聞論説委員の野沢和弘さん、両氏の心あたたまる講演など行なわれました。たくさんの方においで頂き、大盛況のうちに幕を閉じる事が出来ました。ありがとうございました。

第24回 愛ひかりバザール開催のお礼

10月25日、冷たい雨が降りしきる中、非常にたくさんの方にお越しいただきありがとうございました。今年は、新型のインフルエンザの影響が懸念される中、規模を縮小しての開催となりましたが、皆様に支えられて盛会のなか無事終える事ができました。ぜひ来年は、例年通りの形で開催できればと願っております。

編集後記

心あるスタッフが撮影したのが、データーを整理していたら徑で巣を作ったツバメの写真が出てきました。こうやって首を長くして親の帰りを待っています。ひな鳥たちは毎年全員、独り立ちをしていきます。徑はこんなところでも親子のドラマがあるんですよ



庄司晃洋



この広報誌は再生紙を使用しています。

発行：社会福祉法人訪問の家 サポートセンター 徑 広報係担当：庄司晃洋・大森清香・清水香織・立花秀彦
247-0034 横浜市栄区桂台中4-5 045-897-1101 FAX 897-1119